

# 第46回関東教区社会活動協議会のご案内

主の御名を賛美いたします。

暑い夏を迎えました。関東一円が渇水状態に見舞われるなか、九州地方の度重なる集中的な豪雨は、熊本・大分の地震災害をさらに深めています。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。海外のテロ、紛争に呼応して、国内では参院選以降、戦争法案がいつそう現実味を帯びてまいりました。将来を担う若い方々が自ら平和を作り出す幸いを見つめる夏でありますよう祈り願いたいと思います。

さて、関東教区宣教部委員会は、第46回関東教区社会活動協議会を茨城地区を会場に開催いたします。今回は、茨城地区教会・伝道所の皆様の全面的なご協力を得て、ご一緒に学び合い、現地研修ができればと願ってプログラムを作成しました。第1日は、元東海村村長の村上達也氏をお迎えして、ご講演をいただきます。日本の原発発祥の地、東海村の村長を4期16年務められた村上達也氏は、2011年3月11日に発生した東日本大震災後、いち早く「脱原発」を訴え、経済優先から「いのち」を視点に原発依存からの脱却を発信し続けておられます。この機会にぜひ、ご講演を拝聴ください。第2日は、霞ヶ浦南岸に接する阿見町立「予科練平和記念館」にて現地学習を行います。大正時代に、茨城県阿見町に霞ヶ浦海軍航空隊が開隊されて以来、1939年(昭和14年)に横須賀から阿見町に移転した「飛行予科練習部」いわゆる「予科練」が敗戦まで全国の予科練教育・訓練の中心的な役割を担いました。全国から試験で選抜された14歳半から17歳までの少年は15年間で約2万4千人、その中から特別攻撃隊として出撃した少年兵士の戦死者は8割の約1万9千人に及びました(「予科練平和記念館」パンフレット参照)。戦時下の教育は、決して昔のことではなく、現在も装いを変えて、若者を取り巻く環境を作り上げています。「いのち」を見つめながら、今問われている「平和教育」についてご一緒に現地研修をとおして考え合ってまいりましょう。協議会でお会いできますことを楽しみにしてお待ちしています。

2016年7月31日

日本基督教団関東教区

宣教部委員長 飯塚 拓也

## 記

主 題 「今「いのち」を見つめる一脱原発と非戦を考える」

開催日時 2016年9月18日(日)午後6時30分～

19日(月・祝日)正午

※夕食は参加者全員に用意します。会場の都合により夕食時間は午後5時半～6時20分とします。

開催場所 18日(日) ビジネスホテル「つくし」(土浦駅西口近く、ネット検索可)

19日(月・祝日) 予科練平和記念館(阿見町、ネット検索可)・土浦教会(ネット検索可)

講 師 村上 達也(むらかみ・たつや)氏

1943年茨城県石神村(現・東海村)出身。一橋大学社会学部卒業後、常陽銀行入行。1997年9月東海村村長に就任、2013年9月任期満了を機に退任。2016年安保関連法の廃止、立憲主義の回復を求める茨城県市民連合共同代表、脱原発をめざす首長会議世話人。

共著『東海村・村長の『脱原発』論』集英社新書、2013年。

共著『脱原発で住みたいまちをつくる宣言 首長編』影書房、2013年、等。

駐 車 場 ビジネスホテル「つくし」20台可、土浦教会70台可、予科練記念館50台可  
車でお越しの方は、乗り合わせてご来場いただけますようご協力ください。